４つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.578-579
チッパーでの雑木整理をしています

【定例活動報告】小手澤の森

２月の第１日曜日の活動は試験関係の日程が重なったため、少人数での活動となりました。東屋周辺の雑木を整理しながらやれることを、ということになりました。第３日曜日はその続きとして、参加者全員で活動しました。この日は中学生も20名近くが参加しました。相模湖東IC沿いの小手澤の森のうち、平面であるスギヒノキが植わっている部分、面積では0.1ha程度の小さな区画です。この一角の雑木を整理させていただきました。地主さんも教えていただいていましたので３月の活動で現地を確認していただき、地番や活動範囲、活動内容を決めていきたいと思います。関連して活動の最後に参加者全員で集まりまして、安全についての確認を行いま

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。

した。小手澤の森はすぐ脇を中央高速道路が走っているため、次のようなことを確認し、互いに声を掛け合い作業をすることを再確認しました。
[1]木から２０m以内に建屋、フェンス、使用中の人工物、一般道路等がある場合は伐採しない
[2]上記の木を伐採しようとする場合、事前に主要参加メンバーに諮り、全メンバーの意見が一致したとき実施、実施するに際しても、伐採して良い木か、権利関係を確認する、道路が近い場合は交通を止めるかどうかの検討をする、交通を止めるばあいは、行政への申請と、 見張り役の配置が必要になる、二藤さんのようなプロが必ず立ち会う
[3]通常の伐採でも、現場にいる大人の参加メンバー全員一致を前提、一人でも反対者がいたら伐採はしない 、プロがいるときはプロの意見に従う
[4]安全管理意識の共有、大人だけでなく、子供達も含め、当日の活動(自分の行動だけでなく他人の行動も含め)危ないと感じたことがあれば積極的に申告してもらう、上記情報を取りまとめて次回活動時に報告し、情報を共有する
としました。個人的には粟田さんより中学生に、返事をきちんとする、指示が通ったか通ってないかわからない、と社会人新人が言われるようなご指導いただいたことが大変ありがたいなと思いました。なかなか学校生活ではないことなのでいい勉強になったかと思います。

また末筆になりますが、長福寺住職の野呂さんのお母さまがお亡くなりになりました。活動中にお声がけをいただいたり、檀家さんとの間をつないでいただき活動地もご紹介いただきました。謹んでご冥福をお祈りします。

宮村　連理（本会、副理事長）

【定例活動報告】知足の森

今日の活動では、いくつかのチームに分かれて順番にチッパーという機械を使ったり東屋付近を整備したりしました。私は最初にチッパーを使いました。チッパーは枝などを粉砕するもので、東屋の近くに積まれていた枝を粉々にして撒くという作業をしました。たまったものを一輪手押し車で運ぶのが大変でしたが、とても達成感がありました。
次に、東屋付近の整備をしました。手前はもうきれいになっていたので、奥の方を中心に作業しました。終わってから見てみると、すっきりしていてとてもよかったです。
最後に、資料を見ながら安全面についての確認をしました。これ大丈夫かな、と思ったり、ヒヤッとしたことがあったりしたら、それをしっかり報告して、注意すべきことをみんなで共有することが大切だとわかりました。また、小さなことの積み重ねが、大きな事故につながってしまう可能性もあるので、しっかり気を引き締めていかなければいけないと思いました。

GREEN TECH ENGINEER LAB　中学１年生女子

桜井尚武の森のコラム

「アリドオシ（*Damnacanthus indicus*）」

図1　林床のアリドオシ

20151203大多喜町千葉県

図2　アリドオシの花

20220428向島百花園　墨田区

図3　アリドオシの全容

20151203大多喜町千葉県

図4　アリドオシの幼木

20230226三浦富士三浦半島

アカネ科の樹高30cmから60㎝程度の常緑低木。葉は対生で大きい葉と小さい葉が交互に対いで枝につきます。このうちの大きい葉の付け根に長さ1~2cmの細く鋭い刺針を生じます。この刺針が蟻を通すようだとしてこの名があります（図1）。

花は4月末から5月頃に咲き葉腋に1~3個付きます。花冠は筒状漏斗形で白色、先は4裂します（図2）。果実は6～7mmの丸い核果で冬に赤熟します。

分布は関東以南以西の暖帯丘陵部から山麓の常緑林林床で、朝鮮南部と中国南部、台湾、タイ、インドに及ぶそうです。

相模湖周辺では私はまだ見ていず、関東平野周辺では多くないようですが特異な葉とそれを支える枝の構造が面白いと思います。すなわち枝を2方向に約60度の角度で規則的に発生させますが、このことで葉同志の重なりを少なくして林床の乏しい光を効率的に利用するための適応だと思います（図3）。アリドオシの幼木を三浦半島の三浦富士（標高183m）で見つけました。既に約60℃の角度での分枝が顕著にみられます（図4）。この種に似たものに分布域がほぼ同じのジュズネノキ（*D. macrophyllus*）というのがあります。外見はよく似ていますが、根が数珠状に膨らむ特徴があるので識別できます。

アリドオシをセンリョウ(*Sarcandra glabra*)マンリョウ(*Ardisia crenata*)と共に寄せ植えして「千両万両有り通し」と、良い縁起を願い正月を祝う飾り物にしたものが年末の植物販売店の店頭でよく見られます。

（桜井尚武　本会会員）

※前号でクスノキの属名を*Cinnamonum*と書きましたが、*Cinnamomum*と訂正します。

Ex-wordという電子辞書の日本大百科全書（ニッポニカ）版（2017年以前版）にに拠ったのですが、これの誤記だったようです。お詫びして訂正します。

【活動報告】 本会間伐材を活用したワークショップを実施しました

小金井市立東公民館の市民がつくる自主講座、で間伐材を使ったワークショップを実施しました。意外に大人を含んだ講座は珍しかったため、こちらも緊張しました。よく中学生が行っている小金井市貫井北公民館の自主講座と同じで、市民の方が企画運営し、こちらは講師として参加する、という形です。今回は森のボードゲームの体験と製材機とスライド丸のこを使用したまな板づくり体験をしてもらいました。親子で参加、という方が多かったですが、森のボードゲームは大人も子どもも全力で利益を上げようとして林業界の苦しみを実感していただき、まな板づくりでは延々とやすりがけし、大事そうに抱えているこどもたちが印象的でした。製材機の粉もお持ち帰りの方が続出しました。イベントで配ってもあまり人気がなかったのですがこれも自分でやったもの、は思い入れがあるもののようでした。

宮村　連理（本会、副理事長）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン